

# 世田谷で1社! 段ボール・板紙にこだわったパッケージづくり

段ボール箱のスリットや折れ目も思いのまま

カメラの高級化粧箱の製造からスタートした富士梱包紙器は、昭和43年(1968年)の世田谷区への移転を機に段ボール箱の製造を始めました。強い、軽い、安い、加工がしやすいと、良いことづくめの段ボールは梱包材料としてずっと使い続けられてきました。さらに壊れて使えなくなった段ボールは、溶かして再生することができます。現在ではほぼ完全にリサイクルすることができ、環境保全にも大きく貢献しています。

価格競争が厳しくやめていってしまう会社も多い段ボール業界。区内には段ボール箱の製造・加工会社は、同社1社になりました。しかし「時代に合った製品を開発すればまだまだ段ボールの未来は開けている」と将来を担う松倉義弘副社長は言います。段ボールで建てた家? 段ボールの飛行機? 段ボールの船? 近い将来びっくりするようなところでメイドイン世田谷の段ボールに出会うかもしれません。



## ここがすごい!! 段ボールのことを知りつくした職人たち

富士梱包紙器にはよく手入れをされ使い込まれたいろいろな機械が並んでいます。段ボールのシートを断裁し折り筋をつける機械、フタの部分にスリットを入れる機械、箱にするため針金で留める機械、のり付けは手仕事も多く、さらには印刷機まで動かします。

「忙しいときには状況に応じてみんなが何でもできなければ、注文をこなすことができません」と語るのはこの道40年のベテラン工場長。従業員の習熟の高さとチームワークの良さが、多品種、小ロットの注文に迅速に応える秘訣です。

松倉義弘副社長



絶妙のチームワークで黙々といくつもの仕事をこなす

### 富士梱包紙器株式会社

www.fuji-ks.jp

代表者 松倉 昭二  
所在地 世田谷区砧4-1-10  
設立 昭和26年(1951年)  
主な事業 段ボール箱、印刷紙器の企画、製造  
連絡先 ☎03-3415-4431



## VOICE 自分で始めた仕事だから何でも乗り越えられた!

元は普通の勤め人だったんです。でも自分で考えた仕事を自分の思うようにやってみようという気持ちが高まり、脱サラを決意しました。それからは営業も製造も納品も何でもやりました。強い気持ちがあれば、辛くても意外と何でもできるものですよ。



松倉昭二代表取締役社長

世田谷地域

北沢地域

玉川地域

砧地域

烏山地域